教育実習生

教員採用試験突破！

四年前高校生であったとき、私は教員になって地元の復興に教育で携わりたいと決意して進学しました。そして今回母校に教育実習生として戻ってきた私は、原町高校の素敵な先生・生徒たちとの出会いを通して、数多くの貴重な学びを得ることができました。教壇での授業実践に当たっては、社会科を中心に先生方の授業を見せていただきながら、先生方の授業に対する思いや創意工夫に触れました。それを生かして、教材研究に取り組みましたが、理想と現実の壁に苦悩し、試行錯誤の連続でした。引き出しがあっておもしろい話をいつもしてくれる先生になりたいと思っていましたが、自分の力不足を実感する毎日でした。そのような中でも、自分の考えた授業で、生徒たちが協力して考え自ら学ぼうとしている姿や体育祭で互いに支え合って一生懸命取り組む姿を目の当たりにし、教師としてのやりがいを感じました。来年度からは、福島県の小学校教員として、夢の一歩を踏み出すことが決まりました。不安もありますが、これから始まる教員の道、新しい出会いや学びへの期待の気持ちが高まっております。原町高校での教育実習という貴重な機会で得られたことを最大限生かして、今後、指導方法や技術を習得し、教員としての使命感や情熱を高めていきたいと思います。そして、お世話になった先生方や生徒、私を育ててくれた福島県に恩返しをしてきたいと思います。生徒のみならず地域のよさや可能性をも引き出せる教員として、福島県の復興の力となれるよう日々努力します。

本間理恵（六十七回卒）

母校近況

昨年九月十二日に、原高三大行事である「体育祭」が行われました。野球部の三年生による選手宣誓では、全校生を笑いの渦に巻き込みました。そのおかげで体育祭は好スタート！綱引きや連合対抗リレーなどの連合ごとの戦いの他、各部活動が仮装して競い合った部活動対抗リレーもあり、全校生をさらに楽しませてくれました。競技や応援に必死な生徒、対決で負けてしまい悔しそうな生徒など、いつもはみられない原高生のさまざまな表情をみることができました。また、体育祭を通してクラス、学年の垣根を越えて楽しんでいる様子で、終始笑顔が絶えませんでした。閉会式の実行委員長挨拶では、全校生を思う気持ちと今までの努力がひしひしと伝わり、生徒からも温かい拍手が送られました。

平成30年度卒業
生徒会長　樋口和佳子

事務局より

同窓会総会

昨年八月四日㈯、南相馬市原町区のラフィーヌにおいて、今年度の同窓会総会が開催されました。三十名ほどの参加があり、事業報告、決算報告、事業計画、予算案等の議案が審議され、すべての承認が得られました。その後、創立八十周年記念事業に関する内容も報告されました。総会後には恒例の懇親会も開催され、世代を超えた交流が深められました。

今年の同窓会総会は八月三日㈯にホテルラフィーヌで開催されます。一面には概要を掲載していますが、七月中旬に詳細を原町高校ホームページに掲載する予定です。同窓生であれば、どなたでも参加できますので、お気軽にご出席ください。

同窓会活動協力金 現状報告

昨年三月から役員及び世話人の方々のお力添えをいただいて、平成三十年度活動協力金の募金活動を行っています。一月十五日現在で七十五件、三十二万五千円（手数料八千四十円を含む）のご寄付をいただいております。

来年度も、現役生徒の活動の支えになるよう募金活動を行う予定でおりますので、今後ともご協力をお願いします。

今年は創立80周年！

原町高校は今年創立八十周年を迎えます。すでに、記念事業実行委員会が組織され、各種事業内容が検討されています。大きな事業は、記念式典、記念講演会、記念祝賀会、記念誌発行です。式典、講演会は今年十月十二日㈯に南相馬市民文化会館（ゆめはっと）で行われます。講演会講師はNHK解説委員の柳澤秀夫氏にお願いしました。

各種事業の遂行にあたり、同窓生の皆さまのご協力をお願いします。

同窓会名簿作成中

㈱サラトに業務を委託し、同窓会名簿を九月に発行することになりました。同窓生には昨年末に案内の葉書が送られています。まだ返信されていない方がいらっしゃいましたら、早めの投函をお願いします。また、今回は東日本大震災後、初めての作成となります。転居等により案内葉書が届いていない方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

支部だより

【東京支部総会】～ふるさとの復興を想い～

平成三十年十月八日（月・祝）に原高同窓会東京支部総会・懇親会が上野精養軒で開催され、多数（百二十名）の方に出席していただきました。

第一部の総会は、小沢一男副支部長（二十回卒）の司会で始まり、最初に出席者全員で、この一年に亡くなられた方々への冥福を祈る黙祷を、上野寛永寺の「時の鐘」の音に合わせて行いました。

次に、来賓の方、遠隔地からお越しいただいた方、新会員（学生三名）の紹介の後、川鍋裕夫（十七回卒）支部長の挨拶がありました。

議事に入り、役員改選について、遠藤吉樹会計（二十四回卒）からの会計報告、佐藤良一会計監事（二十一回卒）からの監査報告がありました。

その後、来賓の方々の挨拶をいただきました。

先ず、原高の佐川尚史校長、次に杉昭重同窓会会長（二十二回卒）からご挨拶をいただきました。

続いて、高野庄一同窓会本部事務局長（三十三回卒）から、原高の現状、生徒たちの進路、部活動等の活動について報告がありました。

最後に、門馬和夫南相馬市長（二十五回卒）より、南相馬市の現状と復興に向けた力強いお話をいただき、第一部が終了しました。

第二部の懇親会は安部次男副支部長（二十一回卒）が司会を担当し、先ず出席者を卒業年毎に紹介しました。

そして、古室理顧問（三回卒）に乾杯の音頭をとっていただきました。

続いて、馬場仁南相馬市移住・定住推進係長の挨拶の後、楽しい懇談に入りました。

再会を喜び会う人、久しぶりに会う友人、先輩、後輩達と尽きない話題で、時の経つのも忘れ盛り上がりました。

宴も酣になったところで、渡瀬あつ子様（四十六回卒）の歌謡、長谷川貞雄様（十回卒）の歌による全員参加の相馬盆踊り、若い同窓生のリードによる校歌の大合唱、会場は、いよいよ最高の持り上がりを見せました。

最後に、林幸男顧問（十回卒）からの閉会の挨拶で総会と楽しかった懇親会の幕を閉じました。

次回の第三十六回総会は、新たな年号のもと、十月十四日（月・祝）に上野精養軒で開催する予定です。進学・就職される皆様、また、ご家族の方で首都圏に住まわれる方に、東京支部総会にぜひ出席を賜り、懐かしい方と親交を交わしていただけることを望んでおります。同窓会本部まで、ご一報下さることをお待ちしております。

東京支部事務局　鈴木正規（二十九回卒）

快進撃！

原高OBチーム県ベスト4

昨年五月～八月にかけて、マスターズ甲子園2018福島県予選大会が行われました。今年の参加は県内十六チーム。昨年に続き二度目の出場となった原町高校OBチームは、昨年の成績を上回り準決勝まで駒を進め、見事、県ベルト4に輝きました。準決勝の福島商業OBチームとの戦いでは、最終回までもつれ、一打サヨナラのチャンスでしたが残念ながら惜敗となりました。来年度も「マスターズ甲子園への出場と世代を越えた交流」をチームの目標として活動を続けていきます。

（原町高校野球部OBチーム　事務局　渡部貴浩）

対戦結果

一回戦　7月22日　対福島高校OB　13対6で勝利

二回戦　7月29日　対双葉高校OB　5対2で勝利

準決勝　8月18日　対福島商業OB　6対8で敗退

活躍する同窓生①

復興イベントを開催

吉田玉誉さん（四十二回卒）

吉田さん

昨年十月、文楽人形遣い・吉田玉誉さん（本名、関谷泰洋さん）が、南相馬市立高平小学校を訪れ、文楽教室を開催しました。このイベントは、震災復興の一助にと、東日本復興財団の後援を受け、玉誉さんご自身が企画したものです。玉誉さんの丁寧な解説のおかげもあり、小学生も大変興味深く鑑賞していました。

高校時代にバレーボール部で活躍した玉誉さんは、たまたまテレビ番組で観た文楽に魅せられ、高校卒業後に文楽協会の研修生となり、現在は人形遣いとして技能の修練に明け暮れています。1体の人形を3人で動かす文楽において、「頭」と呼ばれる顔と右手を操作する役割が最も重要で、玉誉さんはその「頭」として、主役の人形を動かすことを目標とされています。

玉誉さんから、在校生に対するメッセージをいただきましたので紹介します。「今思うと、高校時代もっと勉強しておけばよかったかな（笑）。進路選択は何がきっかけになるか分かりません。興味を持って、いろいろなものを見ることが大切だと思います。頑張ってください。」

在校生だけでなく同窓生のみなさんも、ぜひ日本の伝統芸能・文楽を鑑賞してみましょう。

訃報

創立八十周年を目前に控え、これまで同窓会の要となって活動いただいた方々が亡くなられました。三名のご生前のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

佐藤　正信 様（相商一回卒）

昭和四十二年から五十一年まで六代目の同窓会長を務められました。昭和四十七年、本紙創刊のあいさつは佐藤様が書かれています。「まさかの友は真の友」地元原町市はもとより、各地でご活躍の同窓生のみなさんが、更に親睦と強調を深め、本紙が「まさかの友」の橋渡しとなれば同窓会報の意義が一段と生かされることとなります。

門馬　直孝 様（五回卒）

第七代の同窓会長で、合併前の原町市長も務められました。昭和五十一年から平成十三年まで実に二十六年もの間、同窓会長を務めていただきました。本紙一面の題字は門馬様に寄贈いただいたものです。

馬場　有 様（十九回卒）

平成六年に浪江支部長に選出されてから支部総会の再開、浪江町在住・勤務者等で双葉高校同窓生とのゴルフ対抗戦を開催されるなど、地域に根ざした活動を通し、原高同窓会の発展に寄与されました。